

## 長崎県松浦市鷹島から産出したサイ科 (哺乳綱, 奇蹄目) 化石について Rhinocerotid (Mammalia, Perissodactyla) fossil from Takashima Island, Nagasaki, Kyusyu, Japan

村上 達郎<sup>1\*</sup>, 宮田 和周<sup>2</sup>, 加藤 敬史<sup>3</sup>, 仲谷 英夫<sup>1</sup>

MURAKAMI, Tatsuro<sup>1\*</sup>, MIYATA, Kazunori<sup>2</sup>, KATO, Takafumi<sup>3</sup>, NAKAYA, Hideo<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 鹿児島大学理工学研究科, <sup>2</sup> 福井県立恐竜博物館, <sup>3</sup> 倉敷芸術科学大学生命科学部

<sup>1</sup>Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University, <sup>2</sup>Fukui Prefectural Dinosaur Museum, <sup>3</sup>College of Life Sciences, Kurashiki University of Science and The Arts.

長崎県松浦市鷹島町船唐津地域から大型の哺乳類化石が産出した。産出した地点には青・黒色泥岩と細粒～中粒砂岩の互層が広がり、その上位に凝灰角礫岩が重なっている。この大型哺乳類化石は青・黒色泥岩層内より産出し、約 6.5m × 4.5m の範囲内に点在し、標本数は約 100 点にのぼる。産出部位は軸椎を含む頸椎 6 点、胸椎 8 点、腰椎 3 点、仙椎、腸骨、肋骨 17 点以上、中手骨 1 点、右脛骨、右腓骨、左右の距骨、左腫骨、左右の舟状骨、右外側楔状骨、右中足骨 3 点、末節骨 4 点である。この標本の脛骨、距骨、踵骨、中足骨の形態はサイ科であることを示す。

鷹島地域では、一杉・古川 (1961) や小林ほか (1956) によると佐世保層群柚木層 (FT 年代 28Ma)、または、鷹島層が分布すると報告されている。しかし、近藤・河野 (2003) が鷹島周辺には野島層群大屋層および深月層 (FT 年代 18~17Ma) に相当する地層が分布していると述べている。そのため、鷹島地域の層序学的な対比には再検討が必要である。

この鷹島標本は国内のサイ科化石の中でも最も四肢骨が揃った化石である。また、東アジアにおいても前期中新世のサイ科の産出例は少なく、本標本は東アジアにおける前期中新世のサイ科の多様性を議論する上で重要な化石となるだろう。

キーワード: 九州, サイ科, 哺乳類, 前期中新世

Keywords: Kyusyu, rhinocerotids, mammal, Early Miocene